

梅津清隆

院長 歯科オーシーキューブ日比谷

臨床助教授 米国ロマリンダ大学歯学部インプラント科

非常勤講師 日本歯科大学生命歯学部

演題:

選択肢としての歯科インプラント治療

～EBM と NBM のバランスを考える～

歯科インプラント治療は近年研究、臨床などの分野に多く広まりつつあり、口腔内治療の選択肢の一つとして一般社会にも認識されています。一方、治療計画の不十分、術者の未熟さ、予後の見解のあまさから、インプラント治療の問題も表面化してきているのも事実です。こうした中、治療計画立案、治療法の選択の重要性が再考されるうえで、**EBM**（根拠にに基づいた医療）の考えで治療を選択する傾向がありますが、治療環境の違い、患者層病歴の違い、術者の技量、経験の違いがある中、**NBM**（物語と対話による医療）も考慮した治療を提案する事も必要と考えられます。それらの二つのコンセプトをバランスよく総括し、患者にとってベストの治療を行う事が必要だと考え、これらの **Thinking Process** を臨床例をまじえて発表します。